

**令和7年度  
学校評価  
(自己点検・自己評価)**

**報告書**

**学校法人 健生学園  
東日本医療専門学校**

## 1. 教育目標

次に掲げる事を本学の教育目標とし、次代を担う柔道整復師・鍼灸師の育成に精励する所存である。

- ・伝統医療を継承しつつ現代の時代のニーズにあった人材育成を目指す。
- ・幅広いフィールドで即戦力となる人材の育成を目指す。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### 1)生徒募集活動の充実

- ・柔整スポーツ科学科
- ・鍼灸スポーツ科学科
- ・保育園園児(今年度卒園児 2 名)

### 2)国家試験対策の強化(専門学校)

- ・国家試験対策授業の実施、模擬試験の実施
- ・模擬認定実技審査の実施
- ・個別指導の強化(時代にあった取り組み)

### 3)英語、体操、食育の強化(保育園)

- ・英語検定の受験
- ・体育教室月 2 回実施(カワイ体操教室講師)
- ・調理実習

### 4)施設・設備

- ・修繕工事
  - 空調機の修理(3 台)
  - 空調機修理(室外基盤交換)
  - トレーニングマシン安全点検および修繕
  - 学校、保育園の駐車場に砂利を補充
  - トイレ修理

### 3. 評価項目の達成および取組状況

#### 1. 教育理念・目的・人材育成像

| 評価項目                                        | 4：適切    | 3：ほぼ適切 |
|---------------------------------------------|---------|--------|
|                                             | 2：やや不適切 | 1：不適切  |
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか                     | 4       |        |
| 学校における職業教育の特色は何か                            | 4       |        |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか                | 4       |        |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・未来構想などが学生や保護者に周知されているか    | 3       |        |
| 各学科の教育目標・育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4       |        |

#### 【課題】

- ・ホームページやパンフレットを通じて、育成人材像や本校独自の特色等の周知のため、継続した広報活動を行う必要がある。
- ・社会情勢(少子高齢化、医療費を含めた物価高騰など)やニーズ、急速に広がる教育のデジタル化の影響に鑑みて、教育内容の見直しを検討していく必要がある。
- ・SNSや動画配信サービスを運用しているが効果的な配信となるような工夫と入学検討者への訴求につながるような内容か、引き続き検討する必要がある。

#### 【今後の改善方策】

- ・学校関係者評価報告書や協力企業からの提言を参考にし、SNS等の活用方法や動画配信サービスなどの活用方法を検証し、より効果的な運用方法を模索する。
- ・教育理念や育成人材像などは、対外的な情報発信はもとより、学校内の教職員や学生に対しても周知徹底を図る。

#### 【特記事項】

- ・SNSの更新やホームページ内にコラムを掲載し、教育方針や学校の特色などが入学検討者に伝わるように力を入れた。
- ・スポーツトレーナー関連資格の取得支援のため各種対策講座を実施した。
  - 1)日本トレーニング指導者(JATI)認定試験対策講座
  - 2)日本スポーツリハビリテーション学会認定トレーナー講習会
  - 3)キネシオテーピング講座
  - 4)日本赤十字社 救急法基礎講習
- ・1年生を対象にコミュニケーション講座を実施した。

## 2. 学校運営

| 評価項目                                     | 4：適切<br>3：ほぼ適切<br>2：やや不適切<br>1：不適切 |
|------------------------------------------|------------------------------------|
| 目的に沿った運営方針が策定されているか                      | 4                                  |
| 運営方針に沿った事業計画が策定されているか                    | 4                                  |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4                                  |
| 人事や給与に関する規定は整備されているか                     | 3                                  |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか           | 4                                  |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか          | 4                                  |
| 教育活動に等に関する情報公開が適切になされているか                | 4                                  |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか                | 4                                  |

### 【課題】

- ・全教職員による学校運営へのさらなる参画意識の向上。
- ・責任の明確化や適正な業務分担。(役割分担が固定化しがち)
- ・設備・機器備品の老朽化。
- ・教員、保育士の確保。(保育士の定着が難しい)
- ・食育の充実。(野菜を育てる環境整備と時間)

### 【今後の改善方策】

- ・事業計画の策定について、十分な理解と準備が必要である。また、業務の効率化を図るとともに、校内体制を見直し、役割分担の明確化を進める。
- ・設備の老朽化に対し、優先順位を明確にしたうえで、計画的な点検、修繕を進める。
- ・PDCA(計画、実行、評価、改善)の循環を確立し、学校運営の改善につなげる。

### 【特記事項】

- ・本年度より、役員および評議員の新体制が発足した。
- ・在学生を対象とした特別授業(各企業より講師を招き)を多く開催した。
- ・就職ガイダンスを開催した。
- ・学生競技会、校外学習を開催した。
- ・保育園にて地域参加型のイベントを開催した。
  - 生バンドによる音楽の鑑賞会
  - ハロウィンコスチュームパレード
  - スワップミーティング

### 3. 教育活動

| 評価項目                                                        | 4：適切     | 3：ほぼ適切 |
|-------------------------------------------------------------|----------|--------|
|                                                             | 2：やや不適切  | 1：不適切  |
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか                             | <b>4</b> |        |
| 教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の就業年数に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | <b>4</b> |        |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか                                     | <b>4</b> |        |
| キャリア教育や実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか          | <b>4</b> |        |
| 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携によりカリキュラムの作成・見直し等が行われているか            | <b>4</b> |        |
| 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップや実技・実習等）が体系的に位置づけられているか     | <b>4</b> |        |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか                                            | <b>4</b> |        |
| 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか                                 | <b>4</b> |        |
| 成績評価や単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか                              | <b>4</b> |        |
| 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                        | <b>4</b> |        |
| 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか                     | <b>4</b> |        |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務、兼務含む）を確保するなどのマネジメントが行われているか     | <b>4</b> |        |
| 関連分野における先端的な知識や技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか   | <b>4</b> |        |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか                                      | <b>4</b> |        |

#### 【課題】

- ・教育の質の向上を図るため、各種研修への受講や教育研究等を行い、先端的知識や技能の習得に努めてはいるが、より体系的な取組ができるように整備が必要となる。
- ・カリキュラムは体型的に整備されているが、社会ニーズをもとに定期的な見直しを検討していく必要がある。
- ・即戦力となる人材輩出のために校外企業の協力を得ながら、さらなる職業教育の充実を目指す必要がある。

#### 【今後の改善方策】

- ・さらなる職業教育の充実のために、インターンシップの拡充や関連分野の企業等と連携した特別講義の実施などの導入に向けた準備を進めていきたい。

- ・教員の指導力の向上や先端的技能の修得のための研修等の充実を図る。

【 特記事項 】

- ・鍼灸スポーツ科学科では卒業認定実技試験を実施し、一定水準の実技能力を修得しているかを評価している。
- ・柔道整復スポーツ科学科では認定実技審査を実施し、外部審査員による外部評価を取り入れている。
- ・前年度に続き、柔道整復スポーツ科学科では協力企業に就職した卒業生をゲストに招き、クラス対抗で知識や技術を競う競技会を開催した。
- ・鍼灸スポーツ科学科でも今年度から競技会を開催し、学年混成チームで技術を競う場を設けた。
- ・各種競技会等においてトレーナー活動を行った。
  - 1)高校柔道競技 大会救護として派遣
  - 2)巨理少年野球合宿 トレーナーとして派遣
  - 3)中学校総合体育大会、新人戦(サッカー競技)に救護活動員として参加 など
- ・各企業や業界団体と連携をとり、以下のセミナーを開催した。
  - 1)県内、県外提携企業 様 — 就職支援特別講話(14回)
  - 2)株式会社セイリン 様 — 鍼の製造工程と電極低周波治療器に関するセミナー など
- ・関連分野の先端的な技術や知識等を修得するため、ジャパン柔道整復師会主催の会員総会、依存症関連問題研修などに参加した。
- ・従来の研修を体系的に整備して、今年度からスポーツトレーナー・キャリアマップ研修プログラムを開始した。

#### 4. 学修成果

| 評価項目                                  | 4：適切     | 3：ほぼ適切 |
|---------------------------------------|----------|--------|
|                                       | 2：やや不適切  | 1：不適切  |
| 就職率の向上が図られているか                        | <b>3</b> |        |
| 資格取得率の向上が図られているか                      | <b>4</b> |        |
| 退学率の低減が図られているか                        | <b>4</b> |        |
| 卒業生や在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか            | <b>3</b> |        |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | <b>3</b> |        |

【 課題 】

- ・学年別に学習指導計画を作成し、放課後の補習等を行い学力向上に取り組んでいるが、それでも勉強習慣の改善を果たせず、成績不良による中途退学が若干名存在している。
- ・学生個々の学習レベルを把握し、モチベーション管理や学習習慣、学習方法を修得するための計画的取り組みを再度精査する必要がある。

- ・卒業後の活躍や活動状況を詳細に把握するために、さらなる交流の充実が必要である。
- ・国家資格の取得がその後の就職状況に影響することから、就職活動に積極的でない学生が一部存在するため就職率への影響が懸念される。

#### 【 今後の改善方策 】

- ・中途退学は学習意欲の低下による成績不良によって発生しやすいため、引き続き学習指導計画の見直しや指導方法の検討を行う必要がある。またインターシップ等の学習意欲が高まるようなイベントの企画を検討する。
- ・就職率の向上のため、職場見学やインターシップの励行、企業説明会を行い、就職活動への理解、円滑な就職活動のサポートを実践する。
- ・担任による個人面談によって学校生活上の悩みや不安を早期に把握する。
- ・学友会との連携や、SNS 等のツールを利用して、引き続き卒業生との交流を図るための施策を検討する。

#### 【 特記事項 】

- ・3年次に就職支援のためのセミナーや企業説明会を開催している。
- ・学習支援として、放課後の勉強会や国家試験対策講座の実施、課題の配布、個別指導等を行っている。
- ・クラス担任との個別面談を定期的実施し、問題把握や解決のための助言を行っている。
- ・JATI 対策講座を開催して資格取得の支援を図った。(今年度は 13 名中 9 名が認定試験に合格)
- ・今年度9月に専門学校 20 周年記念同窓会を開催し、1～19 期までの 82 名の卒業生が参加し、交流を深めることができた。合わせて広報活動への協力を要請した。

### 5. 学生支援

| 評価項目                    | 4 : 適切    | 3 : ほぼ適切 |
|-------------------------|-----------|----------|
|                         | 2 : やや不適切 | 1 : 不適切  |
| 進路や就職に関する支援体制は整備されているか  | <b>4</b>  |          |
| 学生相談に関する体制は整備されているか     | <b>3</b>  |          |
| 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | <b>4</b>  |          |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか      | <b>3</b>  |          |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか   | <b>3</b>  |          |
| 学生の生活環境への支援は行われているか     | <b>3</b>  |          |
| 保護者と適切に連携しているか          | <b>4</b>  |          |

|                                         |   |
|-----------------------------------------|---|
| 卒業生への支援体制はあるか                           | 3 |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか               | 3 |
| 高校や高等専修学校等との連携によるキャリア教育や職業教育の取組が行われているか | 3 |

### 【 課 題 】

- ・在校生に於いては、生活環境面(学習、就職支援、学費納付等以外)の相談窓口が設置されておらず、また、それに対応する専門的な人材がない。
- ・卒業後の進路について、卒業時には進路調査を行っているが、数年経過後の定着率については調査を行っていない。

### 【 今後の改善方策 】

- ・卒業して間もない年度の卒業生から、ハガキやSNS等で現在の勤務先について、定着率や企業とのマッチング状況について調査する。

### 【 特記事項 】

- ・昨今の経済状況を反映し、授業料納付に関する相談を常に受けている。
- ・年1回の学生健康診断の実施、実施後のクラス担任による健康面談の実施。
- ・就職支援では年1回の就職ガイダンス、合同企業説明会を1回、個別の企業説明会を1413社行った。また職員室前のロビーに企業様から頂いた求人票を常に閲覧させ、履歴書添削・面接指導を行っている。
- ・国家試験不合格者に対しては聴講生制度や国家試験対策セミナーへの参加、教員アドバイスのもと学習計画の設定などを行っている。また自習室の開放も行っている。
- ・3年生に対して、専門業者による生活設計講座(マネーリテラシー)の講義を実施した。
- ・1全学年に対して「こころの健康講座」を実施した。
- ・国民年金の学生納付特例申請を15件行った。

## 6. 教育環境

| 評価項目                                       | 4：適切     | 3：ほぼ適切 |
|--------------------------------------------|----------|--------|
|                                            | 2：やや不適切  | 1：不適切  |
| 施設や設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか           | <b>4</b> |        |
| 学内外の実習施設・インターンシップ・海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | <b>4</b> |        |
| 防災に対する整備はされているか                            | <b>4</b> |        |

### 【課題】

- ・校外施設での臨床実習を含め、職業教育の充実のために、積極的な広報活動や協力企業の募集に継続して取り組む必要がある。

### 【今後の改善方策】

- ・実習施設の利用者数を増やすために、SNSの活用、広告等による広報活動を行う。
- ・外部臨床実習施設を増やすために指導者講習会の開催を検討する。

### 【特記事項】

- ・プロスポーツ研修、各種トレーナー研修、ゲレンデ接骨院臨床見学実習などのインターンシップ、各セミナー（P.5参照）を企画、実施した。
- ・高校柔道競技の大会に救護派遣を行った。
- ・少年野球合宿にトレーナー派遣を行った。
- ・中総体サッカー競技の救護員として参加した。 など
- ・協力企業の助力を得て、少年野球チームの野球肘検診のサポートを行った。
- ・楽天インターンシップに参加し、プロ球団所属のトレーナーから直接指導を受けながら、プロスポーツ現場での活動について学んだ。
- ・マイナビレディース仙台様の協力のもと新たにプロスポーツ研修を実施した。

## 7. 学生の受け入れ募集

| 評価項目                       | 4：適切     | 3：ほぼ適切 |
|----------------------------|----------|--------|
|                            | 2：やや不適切  | 1：不適切  |
| 学生募集活動は適正に行われているか          | <b>4</b> |        |
| 学生募集活動において教育成果は正確に伝えられているか | <b>4</b> |        |
| 学納金は妥当なものとなっているか           | <b>4</b> |        |

### 【 課 題 】

- ・生成 AI の活用増大により、SEO やリスティング広告だけでなく LLMO 対策も必須。
- ・進学先検討の時期が早まり、高 2 もターゲット層に加味する必要がある。
- ・早期接触した学生の歩留まり率向上

### 【 今後の改善方策 】

- ・スポーツ感や躍動感、学校のアットホームさを強調した HP に改編する  
加えて LLMO 対策を講じ、生成 AI から引用、上位表示されるよう努める
- ・公式 HP や SNS にて学生の様子を主軸に、「親近感」や「入学後の具体的イメージ」を PR する
- ・年次に合わせたさまざまな研修実施による学習意欲向上と、高 3 へのアクティブイメージ強化を図る

### 【 特記事項 】

- ・2026 年 3 月～公式 HP を改編（LLMO 対策タグも組み込む）
- ・早期接触した学生には毎月 LINE 等で連絡図り、進路状況を確認
- ・体験入学会ではガイダンス短縮し体験授業へ充当させ、知識よりも【実体験】を重視

## 8. 財務

| 評 価 項 目                  | 4 : 適切    | 3 : ほぼ適切 |
|--------------------------|-----------|----------|
|                          | 2 : やや不適切 | 1 : 不適切  |
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | <b>4</b>  |          |
| 予算や収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | <b>4</b>  |          |
| 財務について会計監査が適正に行われているか    | <b>4</b>  |          |
| 財務情報公開の体制整備はできているか       | <b>4</b>  |          |

### 【 課 題 】

- ・限られた予算の中で効率的、計画的な予算配分。
- ・設備の老朽化に伴う修繕、更新費用の増大。
- ・教育活動と施設設備の両立に向けた財源確保。

### 【 今後の改善方策 】

- ・予算配分の優先順位を明確にし、計画的な財務運営を行う。
- ・助成金、受配者指定寄付金の活用を検討し、安定した税務運営を図る。

**【 特記事項 】**

- ・毎年 5 月に監事や公認会計士による会計監査を行っている。
- ・毎年 5 月に私学・公益法人課 学事班の学校基本調査を受けている。
- ・受配者指定寄付金を企業より受け、教育研究費に使用した。
- ・企業主導型保育園(ダヴィンチ英智保育園)
  - 6 月「児童育成協会」企業主導型保育施設に対する立ち入り調査。
  - 9 月「仙台市」認可外保育施設立ち入り調査。

**9. 法令等の遵守**

| 評 価 項 目                       | 4 : 適切    | 3 : ほぼ適切 |
|-------------------------------|-----------|----------|
|                               | 2 : やや不適切 | 1 : 不適切  |
| 法令や専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | <b>4</b>  |          |
| 個人情報に関し、その保護のために対策が取られているか    | <b>3</b>  |          |
| 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか         | <b>4</b>  |          |
| 自己評価結果を公開しているか                | <b>4</b>  |          |

**【 課 題 】**

- ・法令等適切に遵守し、ガバナンスの確保に努めている。また、指導を受けた場合には、迅速に必要な改善・報告を行っている。
- ・IT化が進むなか、情報漏洩の管理対策をより厳重にする。

**【 今後の改善方策 】**

- ・引き続き自己点検、自己評価を実施し、更に学校関係者評価委員会で意見を仰ぎ、適切な学校運営を継続させていく。

**【 特記事項 】**

- ・法令や設置基準改正等については、その都度教職員に周知し、法令に沿った職場の環境改善を進めている。

## 10. 社会貢献・地域貢献

| 評価項目                                       | 4：適切     | 3：ほぼ適切 |
|--------------------------------------------|----------|--------|
|                                            | 2：やや不適切  | 1：不適切  |
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか            | <b>4</b> |        |
| 学生のボランティア活動を奨励し、支援しているか                    | <b>3</b> |        |
| 地域に対する公開講座や教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託を積極的に実施しているか | <b>3</b> |        |

### 【 課題 】

- ・地域・社会に開かれた学校として積極的に情報公開、施設貸出しなどを実施する。また、教育成果を地域や社会に還元し交流を深める。
- ・ボランティアの必要性や意義を学生に認識させ、学生自らが進んで活動するよう奨励、支援する

### 【 今後の改善方策 】

- ・教育活動やボランティア活動を通じて、地域と連携を取り地域振興の一翼を担うことが必要である。

### 【 特記事項 】

- ・附属施術所にて一般外来患者の受け入れ。（はり・きゅうの一部患者のみ）
- ・派遣依頼を受けて各種スポーツ大会への救護係の派遣を行っている。
- ・校内に AED を設置し、日本救急医療財団 全国 AED マップへ登録しており、医療系教育機関として地域住民の安全を支援している。